

令和6年11月14日(木)
令和6年度農地中間管理事業の推進に向けた研修会

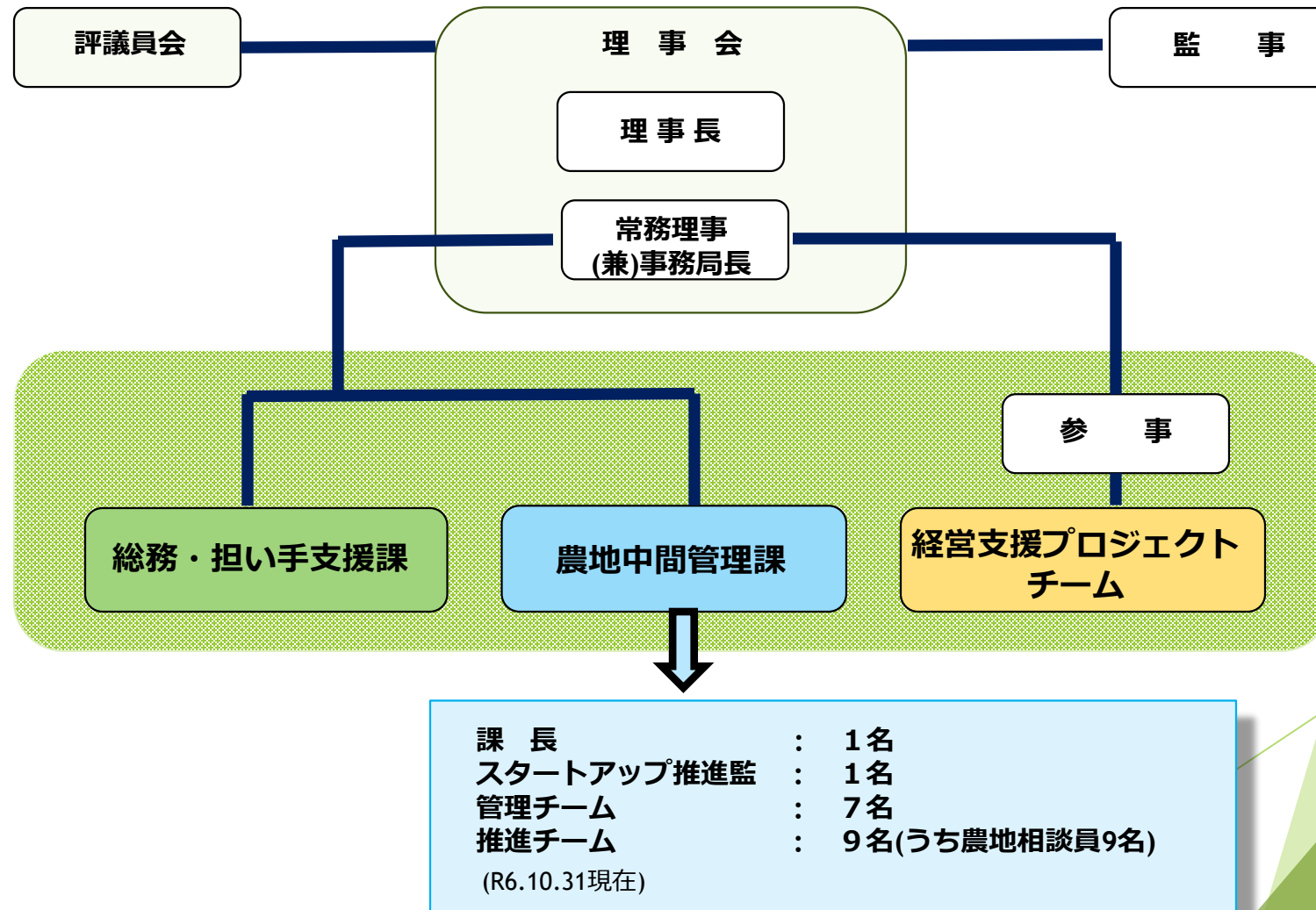
「みえ農業ビジネスプランコンテスト」の取組について

～県内農業の持続的な活性化に向けて～



公益財団法人三重県農林水産支援センター

公益財団法人三重県農林水産支援センターの体制



農地中間管理事業の実施状況

◆貸借◆

令和5年度の実績				令和6年度(9月末)の実績			
借受・貸付実績		出し手数	受け手数	借受・貸付実績		出し手数	受け手数
面積(ha)	筆数			面積(ha)	筆数		
889.7	6,928	2,927	624	487.9	3,973	1,488	509

◆売買◆

令和5年度の実績						令和6年度(9月末)の実績					
買入			売渡			買入			売渡		
件数	筆数	面積(ha)	件数	筆数	面積(ha)	件数	筆数	面積(ha)	件数	筆数	面積(ha)
19	27	5.1	17	35	6.1	21	43	6.4	11	17	2.9

農地中間管理事業の実施状況

◆担い手への集積面積の状況(農地中間管理機構を介さないものを含む)◆

年間集積 目標面積 (ha) (①)	担い手への集積面積の状況								担い手への 集積面積(ha) 【H26年3末】 (⑥)	
	担い手への 集積面積(ha) 【R5年3月末】 (②)	集積率	担い手への 集積面積(ha) 【R6年3月末】 (③)	集積率	過去1年間の 集積増加面積 (ha) (④=③-②)	④ / ①	過去10年間の 集積増加面積 (ha) (⑤=③-⑥)	⑤ / (① ×10)	集積率	
2,670	25,517	44.8%	25,957	46.0%	440	16%	8,145	31%	29.2%	

出展：農林水産省「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

三重県の遊休農地の状況

(単位:ha)

	1号遊休農地(再生利用 可能な荒廃農地) (注1)	うち緑区分 (注2)	うち黄区分 (注3)
三重県	2,767	2,179	589
全 国	89,858	56,638	33,220

出展：農林水産省「令和4年度遊休農地面積」

(注1)草刈りや抜根等の基盤整備により耕作が可能と見込まれる農地
(注2)草刈り等を行うことにより、直ちに耕作することが可能な農地
(注3)基盤整備事業の実施など農業的利用を図るための条件整備が必要となる農地

農業分野への新規参入や規模拡大した企業等の主な事例

社 名	業 種	主な作目	経営規模(m ²)	備考
アイトム建設(株)	建設	ソバ、ナタネ、サツマイモ等	21,200	
(株)秋本天産物	農業用資材	白ネギ、玉ねぎ苗	30,000	
(株)アグリッド	農業	トマト	40,000	(株)浅井農園と(株)デンソーとの共同出資で設立
(株)浅井農園	農業	トマト、キウイ	※140,000	※キウイ農園のみ 次頁で紹介
(株)アヤマNOSAN	建設、農業	水稻、野菜他	200,000	
イオンアグリ創造(株)	農業	キャベツ、ハクサイ	80,000	イオン(株)の100%子会社
うれし野アグリ(株)	農業	施設トマト	20,000	辻製油(株)、(株)浅井農園、三井物産(株)、イノチオアグリ(株)の共同出資で設立
(株)エスティファーム	農業	サツマイモ、ブロッコリー他	25,000	親会社は(株)フジトランスコーポレーション
三交不動産(株)	不動産	ミニトマト	2,000	三重交通グループホールディングス(株)の100%子会社
(株)住化ファーム三重	農業	みつば	4,000	親会社は住友化学(株)
長島観光開発(株)	レジャー	イチゴ、オリーブ	55,200	
松阪興産(株)	砂利、碎石製造販売	水稻ほか	200,000	
(株)三重伊賀里山整備	建設	ブルーベリー	16,000	
農業法人ポモナファーム	農業	トマト、マイクロリーフ	5,000	次頁で紹介

農業分野への新規参入や規模拡大した企業等の主な事例

(株)浅井農園

- ◆ 2018年2月に、ニュージーランドのゼスプリ社と提携し、玉城町に約7.3haのキウイフルーツ第1農園を開設。高生産性キウイフルーツを栽培・出荷。
- ◆ 2024年2月に、津市に約6haのキウイフルーツ第2農園を開設。2026年秋からの収穫を目指す。

(写真は第1農園)



農業法人ポモナファーム

- ◆ 愛知県出身で沖縄で農業ベンチャー「カルティベラ」を起業した豊永氏が、多気町の製薬メーカー万協製薬と、丹生営農組合との共同出資で、2017年に農業法人ポモナファームを設立。
- ◆ 極力水を使わない環境保全型膜式栽培農法によるミニトマトを生産・販売。

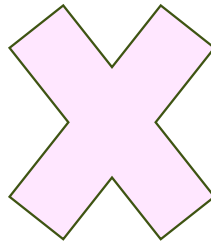
(写真は生命力ある根の様子とハウス)



県内農業の持続的な活性化には 農地の集積・集約化と企業等の農業参入や規模拡大が重要テーマ

農地の集積・集約化のメリット

- ☞ 生産効率の向上
- ☞ コスト削減
- ☞ 品質向上



企業等の農業参入や規模拡大の メリット

- ☞ 技術とノウハウの導入
- ☞ 資金調達の容易さ
- ☞ 雇用の創出

持続的に発展可能な農業の実現

しかし、農業参入企業等と地権者だけではなかなかマッチングに至らない

それぞれの課題が・・・

農業参入企業等の課題・・・

- ①どのように農地を探せばよいのかわからない
- ②複数の地権者との交渉は難しい
- ③集約された農地を見つけられない
- ④借り受けた農地はあるがなかなか受け入れてもらえない

地権者の課題・・・・・・・・

- ①どこの誰かもわからないのに不安だ
- ②地域に根ざして、しっかりと農業をやってもらえるのか

みえ農業ビジネスプランコンテスト

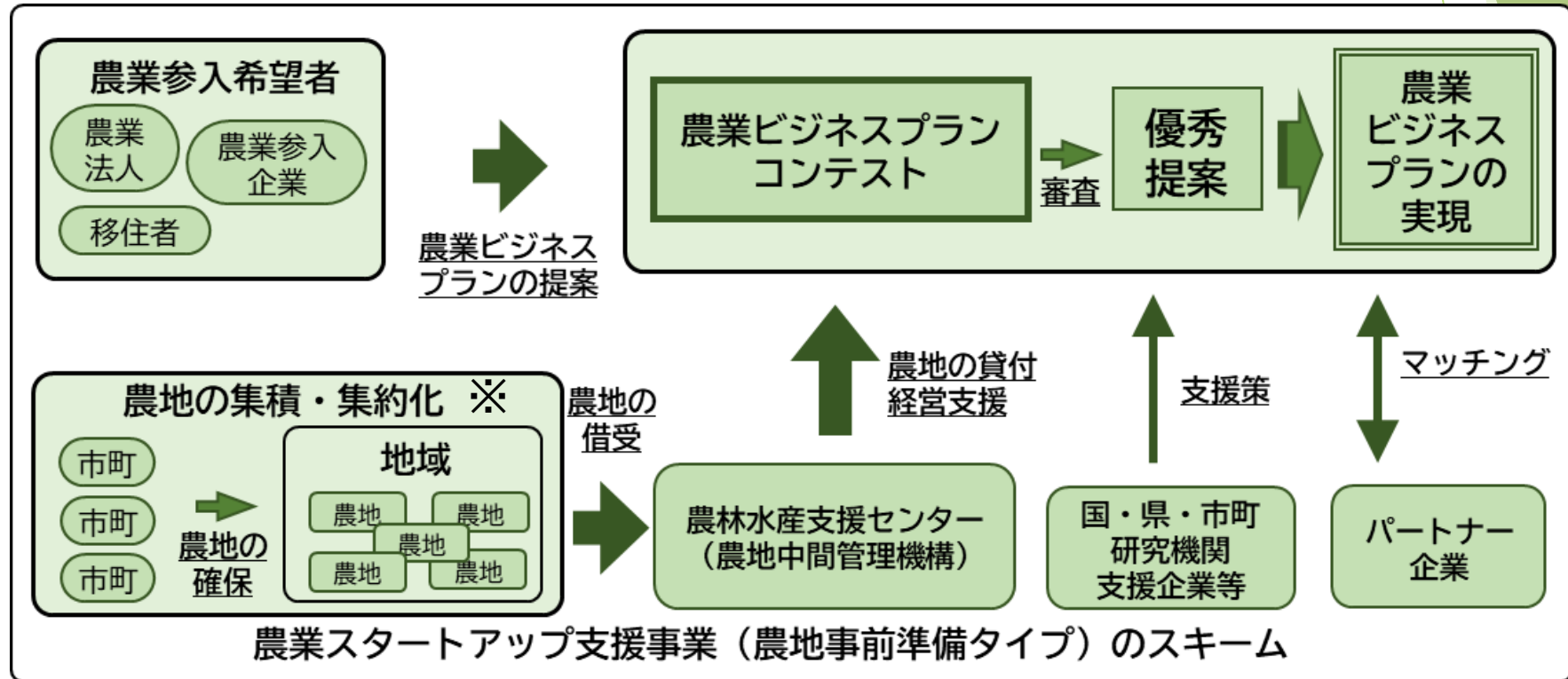
農業参入企業等と地権者の課題を解決するための取組策が
「みえ農業ビジネスプランコンテスト」
令和5年度から取組開始

- 新たに農業に進出したい、あるいは規模拡大したい優秀なビジネスプランを持った企業等に対して、当センターが市町等と協力して、農地を優先的に提供すること。
- 地権者の不安に対しては、ビジネスプランを公募し、コンテスト形式で専門家の厳正な審査を経て、高く評価できた企業等に中間管理事業を通じて貸していただくシステムなので、安心できること。

令和5年度みえ農業ビジネスプランコンテスト

【募集メニュー】

- ① **農地事前準備タイプ** 当センターが、事前に同意を得た農地を対象に、そこで実施する農業ビジネスプランを募集し、コンテスト形式での審査により選定した優秀提案者に優先的に農地を提供する。



(※) 3町の協力を得て実施

明和町

池村前田地内 約2ha

多気町

笠木市門地内 約0.5ha
色太地内 約0.4ha

玉城町

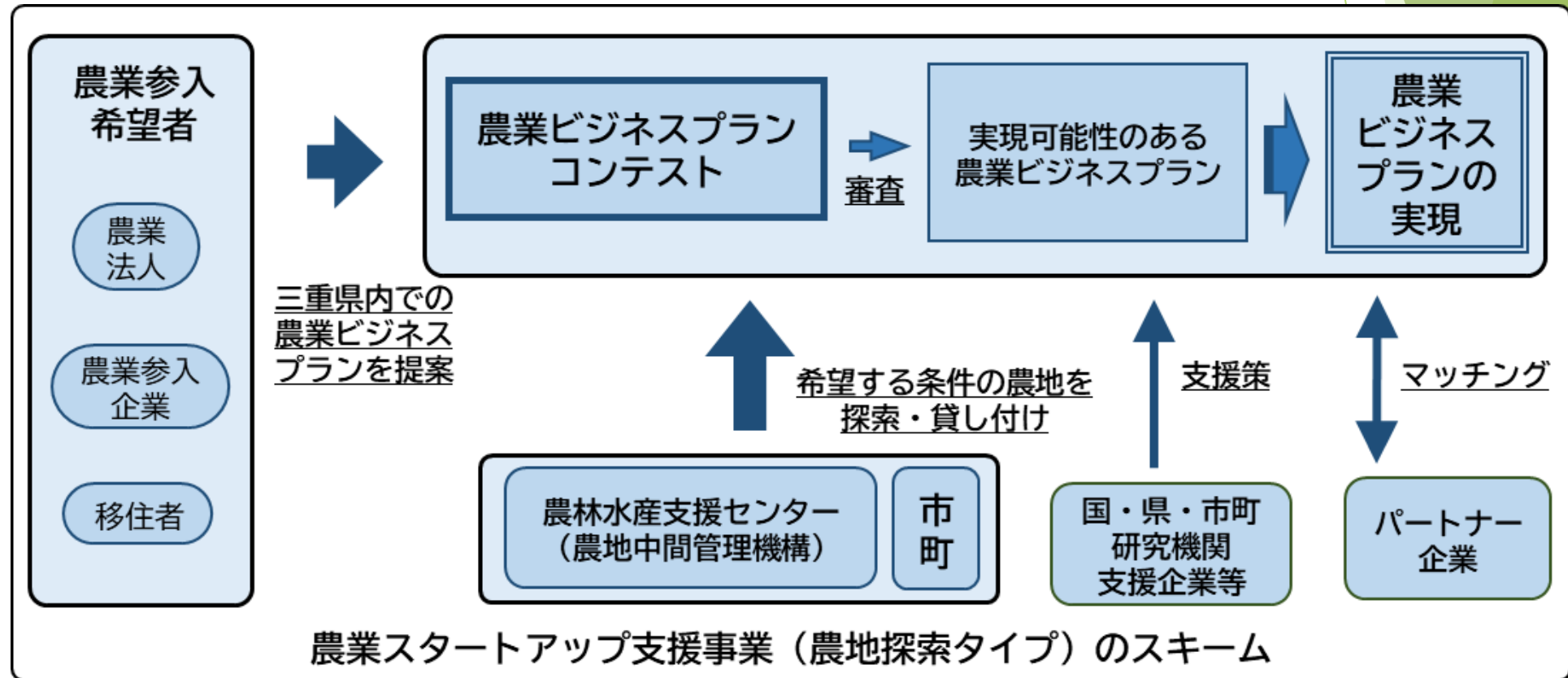
勝田岩坂地内 約1.7ha
岩出地内 約0.7ha

令和5年度みえ農業ビジネスプランコンテスト

【募集メニュー】

②農地探索タイプ

事前に農地を特定せず、三重県内で実現したい農業ビジネスプランを募集し、コンテスト形式で実現可能性を審査したうえで、実現可能性が高い提案について支援センターが市町等と協力してプランに応じた農地を探索し、提供する。



令和5年度みえ農業ビジネスプランコンテスト

【審査委員会】

(敬称略)

所属・役職	氏 名	備 考
国立大学法人三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 教授	西村 訓弘	委員長
農林水産省東海農政局 局長	森 重樹	
株式会社浅井農園 代表取締役CEO	浅井 雄一郎	
株式会社日本政策金融公庫津支店 農林水産事業統括	梶山 泰治	
三重県中央農業改良普及センター 所長	清水 秀巳	
玉城町産業振興課 課長	里中 和樹	